

持続可能な社会のために

近年は「持続可能な…」というのが社会全体のキーワードになっており、各種メディアには官庁も自治体も民間企業も（そして研究機関にも！）この言葉を冠した様々な新しいプロジェクトが溢れています。この100年くらいの急激な人口増大、社会経済の発展の大きな勢いに乗って、社会的強者が弱者に犠牲を強いたり次世代に負債を押しつけることも厭わず突き進むといった思想から、あらゆる方々が社会の意思決定に参加しつつ、限られた資源を世代を超えて有効に使い続けていくという思想への転換が進んできたという事なのでしょう。

子育てと仕事の両立支援等といった働き方改革が進んだのもこの思想の転換の産物の一つと思います。

自分自身を振り返っても、30年前は長時間労働が当たり前で育休制度も無く、出産後2ヶ月未満の産休明けに自分も子供もまだ体調の整わない状態からフルに働かないといけない、そうしなければ仕事を続けられないと追い込まれて泣きながら出勤していた（もちろん職場に着くまでにビシッと切り替えていましたが）ことが遠い昔の事のように懐かしく思い出されます。

今はその頃より育休等の支援制度が整いつつあるのは喜ばしいことです。しかしそれでも保育士不足など環境は整わず、未だに仕事と子育ての両立は大きなハードルになっている様です。急激な少子高齢化の進行への対処は本当に難しい課題ですが、人口減少の底が見えないような社会は持続可能とは言い難いのではと思われます。

そこで一案。子供は重要な社会資産であるという考え方から、支援制度を使って子育てに参加できる人の範囲を、親ばかりでなく祖父母や叔父叔母、さらには血縁がなくとも親が認めた「子育て支援者」に広げるなんて如何でしょう。もし実現したら、私は早速、娘・息子に嫌われない程度に改めて孫育てにチャレンジし、仕事との両立を目指してみたい！と密かに企んでいます。

（前 水環境保全チーム上席研究員 巖倉 啓子）

* * * *

表紙右上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。